

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
障害者政策総合研究事業（精神障害分野）

精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究  
（H28-精神-指定-001）

就労継続支援A型事業所における短時間労働に関する調査

（国研） 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
地域・司法精神医療研究部  
佐藤さやか

# 背景

- ・ 2015年10月 就労継続支援A型での短時間就労の報酬単価引き下げ

→2017年8月 全Aネット「就労継続支援 A 型事業所全国実態調査結果」

—全国3,500事業所が対象、調査有効回答は942件（28.0%）

—結果：

障害種別利用者数では「精神」が実員総数の43.9%で最多

精神障害者の実労働時間について、20-30時間のものが最多であったが、労働時間が長くなるほど精神障害者の比率が低かった

（=短時間のグループほど精神障害者のウエイト大）

—今後の課題：

- ・（行政への要望として）精神障害者利用の時短への配慮
- ・（就A側に必要な取り組みとして）特に働きづらい人に対する重度判定

## —御荘診療所（愛媛）長野敏宏先生の問題意識

「短時間就労には良い部分、ニーズがあるのに評価されないのは困る」

## —企業側の意見

- ・ いずれは20時間を目指して短時間勤務から始める、ということならOK、しかしずっと短時間勤務では、正直なところ業務上の戦力にならない
- 短時間目的の就労が歓迎されない雰囲気も

## —先行研究

- ・ 当事者の重症度（やそのほかの臨床像）に関する指標は手帳の等級のみ

塩津博康（2016）．就労継続支援A型事業所における効果的な実践方法の検討．社会福祉学，56，105-116．

⇒精神障害者の短時間勤務が実態としてあり、臨床的には一定のメリットやニーズがあるが、これにあてはまる当事者関連の要因が不明

# 目的

—就労継続支援A型事業所に通所する精神障害者の労働時間と臨床像について実態調査を行い、両者の関連について検討する

年齢

診断

精神症状/服薬量

支援体制

ソーシャルスキル

作業能力

その他

⋮

これらの要因が  
どのくらい  
関連しているのか  
調べる

労働時間



# 方法

## —対象

- ・全Aネットに参加する就労継続支援A型事業所に通所する精神障害者およびスタッフ

## —調査内容

- ・基本属性：生年月日、性別
- ・病状：診断名、入院歴等
- ・保険・障害福祉サービス利用状況：保険取得状況、利用サービスの種類等
- ・過去と現在の就労状況：職歴、就労時間等
- ・就労への意欲：ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度
- ・生活への満足度：WHO-QOL26
- ・本人の能力：Vocational Cognitive Rating Scale  
Social Skills Scale for working place
- ・精神障害症状：Personal and Social Performance Scale

# —研究協力を頂いた事業所さま

1	かたばみ	群馬県
2	やどかり情報館	埼玉県
3	カフェ&ベーカリーどんなときも (第3川越いもの子作業所)	埼玉県
4	フードサービス事業所	東京都
6	しごとも	東京都
7	ファムロード日野南	横浜市
8	就労センターとも	京都市
9	就労継続支援事業所あむりた	京都市
10	IP Factory ぷろぼの	奈良市
11	ソーシャルファームピネル	和歌山県
12	けいじん舎	和歌山県
13	麦の郷印刷	和歌山県
14	ソーシャルファーム もぎたて	和歌山県

# 進捗状況

- データ収集

すべての研究協力機関でデータ収集は終了（利用者約100名から同意）  
分析に向けたデータ入力と整理を実施中

- 当日（3/9）には、ベースラインデータを概要と中間分析結果をお示しする予定です。